

令和6年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

低学年では個人や友達、学級で体を動かしつつ、運動遊びを通して体を動かす楽しさを知ることができた。中学年ではペアやグループでの運動を取り入れた。きまりやルールがある中で関わり合い、話し合いながら楽しく運動学習をすることができた。高学年では自分の課題に合わせて場や活動の内容を工夫したりした。自分たちで話し合いながらよりよい運動になるようにきまりやルールを考えることができた。

令和5年度体力・運動能力調査の結果からは上体起こし、長座体前屈の結果が比較的高い傾向にあることが分かった。屋内や少人数でもできる活動を生活の中で取り入れたり、日常的なストレッチの習慣がついたりしてきたことで向上したと考えられる。

(2) 課題

感染症や気温の上昇等、様々な要因により、運動そのものや屋外での活動場面が減少しており、全体的に体力低下は課題である。安全面を考慮しつつ、活動時間を確保する方策を考える必要がある。また運動のポイントは分かっているにもかかわらず実際に体を動かすことが難しい児童も一定数おり、知識と技能の両方を向上させることにも課題が見られる。

令和5年度体力・運動能力調査ではどの種目も全国平均、東京都平均より低いかほぼ等しいという結果であった。特に握力、反復横とび、20mシャトルランの結果が低い傾向にあることが分かった。

2 令和5年度体力・運動能力調査結果における分析～学年別の傾向と改善策について～

学年	◆特に低い傾向の測定種目	□改善策
1年生	◆反復横跳び	□鬼ごっこやスタートダッシュの練習など、左右に動いて相手をかわしたり、素早く走ったりする運動や遊びを取り入れる。
2年生	◆立ち幅とび	□けんけんばやステップなどのリズムよく遠くに跳ぶ練習や、授業では体全体を使った大きなフォームで跳ぶことを意識させる。
3年生	◆反復横とび	□鬼ごっこやタグラグビーなど素早く走り抜けたり、左右に動いたりするような俊敏性を高める遊びや運動を取り入れる。
4年生	◆反復横とび	□鬼ごっこやタグラグビーなど素早く走り抜けたり、左右に動いたりするような俊敏性を高める遊びや運動を取り入れる。
5年生	◆反復横とび	□鬼ごっこやタグラグビーなど素早く走り抜けたり、左右に動いたりする俊敏性を高める遊びや運動を取り入れる。
6年生	◆立ち幅跳び	□立ち幅跳びの学習では、タイミングを合わせて正しいフォームで跳ぶように指導する。体全体を使い、瞬発力をつけて跳ぶ練習をする。

3 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知る。また基本的な動きを身に付けることができるようにする。	運動遊びの行い方を知り、教師の問いかけをもとに方法を工夫する。気付いたことを他者に伝えることができるようにする。	運動遊びを楽しみ、進んで取り組めるようにする。またきまりを守り、誰とでも仲良く運動をしたり、意欲的かつ安全に運動をしたりする態度を養う。

中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方について理解する。また基本的な動きや技能を身に付けることができるようにする。	教師の問いかけをもとに、自己の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫する。また考えたことを他者に伝える力を養うことができるようにする。	運動に進んで取り組み、きまりを守ること、誰とでも仲良く運動すること、場や用具の安全に留意することを通して、粘り強く運動しようとする態度を養う。

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方について理解する。また運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けつつ、さらに技能を高めることができるようにする。	自己の運動の課題や身近な健康に関わる課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫する。また、考えたことやアドバイスを他者に伝える力を養う。	運動に積極的に取り組み、約束を守る、助け合って運動する、仲間の考えや取り組みを認める、場や用具の安全に留意する態度を養う。また自己の心技体の向上のため、最善を尽くして運動をする態度を養う。